

ル ツ 記

イ士二・一六 ホ士三・三〇 チ書二四・一五 ラ創三八・一一 申 一。  
 ロ創一二・一〇、二六 へ出四・三一 路一・リ得一・五、ニ・ニ。二五・五。  
 一 王下八・一 六八 ス提後一二・六、一七。ワ士二・一五 伯一九。  
 ハ士一七・八 ト詩一三二・一五 太 一八。二二・詩三二・四。  
 ニ創三五・一九 六・一 ル得三・一 三八・二、三九・九。

第一 章

士師の世をさむる時にあたりて國に饑饉ありければ一箇の人その妻と二人の男子をひきつれ  
 てペテレヘムユダを去りモアブの地にゆきて寄寓る。その人の名はエリメレクその妻の名はナオ  
 ミその一人の男子の名はマロンおよびキリオンといふペテレヘムユダのエフラテ人なり彼等モアブの地にいたり  
 て其處にをりしが ナオミの夫エリメレク死しにてナオミとその二人の男子のこさる。彼等おののおのモアブの  
 婦人を妻にめとるその一人の名はオルバといひ一人の名はルツといふ彼處にすむこと十年許にして マロンと  
 キリオンの二人もまた死り斯ナオミは二人の男子と夫に後れしが

モアブの地にて彼エホバその民を眷みて食物を之にたまふと聞ければその媳とともに起てモアブの地より  
 歸らんとし その在ところを出たりその二人の媳これとともにあり彼等ユダの地にかへらんと途にすゝむ  
 爰にナオミその二人の媳にいひけるは汝らはゆきておののおの母の家にかへれ汝らがかの死じにたる者と我とを善く  
 待ひしごとくにねがはくはエホバまたなんぢらを善くあつかひたまへ ねがはくはエホバなんぢらをして各々  
 その夫の家にて安身處きうちをえせしめたまへと乃ちかれらに接吻くちづけしければ彼等聲こゑをあげて哭き 之にいひけるは  
 我ら汝とともに汝の民にかへらんと ナオミいひけるは女子よ返れ汝らなんぞ我とともにゆくべけんや汝らの  
 夫となるべき子猶こなづわが胎はらにあらんや 女子よかへりゆけ我は老おたれば夫おもつをえざるなり假設よしわれ指望のぞみあり  
 といふとも今夜夫を有つとも而してまた子こを生うむとも 汝等なこれがために其子の生長ひとなるまでまちをるべけんや  
 之がために夫おもたずしてひきこもりをるべけんや女子よ然すべきにあらず我はエホバの手てのぞみてわれを攻せめ

「四 しことを汝らのために痛くうれふるなり。彼等また聲をあげて哭く而してオルバはその姑に接吻せしがルツは之を離れず。

「五 是によりてナオミまたひけるは視よ汝の妯娌はその民とその神にかへり往く汝も妯娌にしたがひてかへるべし。ルツいひけるは汝を棄て汝をはなれて歸ることを我に催すなけれ我は汝のゆくところに往き汝の宿るところにやどらん汝の民はわが民汝の神はわが神なり。汝の死るところに我は死て其處に葬らるべし。若死別にあらずして我なんぢとわかれなばエホバわれにかくなし又かさねてかくなしたまへ。彼媳が固く心をさだめて己とともに來らんとするを見しかば之に言ふことを止たり。

「九 かくて彼等二人ゆきて終にベテレヘムにいたれる時邑こぞりて之がためにさわぎたち婦女等是はナオミなるやといふ。ナオミかれらにいひけるは我をナオミ(樂し)と呼なけれマラ(苦し)とよぶべし全能者痛く我を苦めたまひたればなり。我盈足て出たるにエホバ我をして空くなりて歸らしめたまふエホバ我を攻め全能者われをなやましたまふに汝等なんぞ我をナオミと呼や。斯ナオミそのモアブの地より歸れる媳モアブの女ルツとともに歸り來れり即ち彼ら大麥刈の初にペテレヘムにいたる。

「一 第二章 茲にモアブの女ルツ、ナオミにいひけるは請ふわれをして田にゆかしめよ我何人かの目のまへに恩をうることあらばその人の後にしたがひて穂を拾はんとナオミ彼に女子よ往べしといひければ。乃ち往き遂に至りて刈者の後にしたがひて穂を拾ふ彼意はずもエリメレクの族なるボアズの田の中にいたれり。時に

ヨ詩一二九・セ・八路 タ得一・二二  
一・二八 撮後三・レ母前二五・二三 ツ・丑前三四・一九  
一六 ソ得一・一四、一六、ネ得一・一六 詩一七・ナ創三三・一五 母前 ム創三四・三 壬一九

一七 八・三六・七、五七 一・二八  
一、六三・七 ラ母前三五・四一 ウ第二・一八

ボアズ、ベテレヘムより來りその刈者等に言ふねがはくはエホバ汝等とともに在せと彼等すなはち答てねがはく  
はエホバ汝を祝たまへといふ 五 ボアズその刈者を督る僕にいひけるは此は誰の女なるや 六  
へて言ふ是はモアブの女にしてモアブの地よりナオミとともに還りし者なるが 七 いふ請ふ我をして刈者の後に  
したがひて禾束の間に穂をひろひあつめしめよと而して來りて朝より今にいたるまで此にあり其家にやすみし間  
は暫時のみ

八 ボアズ、ルツにいひけるは女子よ聽け他の田に穂をひろひにゆくなかれ又此よりいづるなかれわが婢等に  
離すして此にをるべし 九 人々の刈ところの田に目をとめてその後にしたがひゆけ我少者等に汝にさはるなかれ  
と命ぜしにあらずや汝渴く時は器の所にゆきて少者の汲るを飲めと 一〇 彼すなはち伏て地に拜し之にいひけるは  
我如何して汝の目の前に恩恵を得たるかなんぢ異邦人なる我を顧みると 一一 ボアズこたへて彼にいひけるは汝が  
夫の死たるより已來姑に盡したる事汝がその父母および生れたる國を離れて見ず識すの民に來りし事皆われに  
聞えたり 一二 納がはくはエホバ汝の行爲に報いたまへねがはくはイスラエルの神エホバ即ち汝がその翼の下に身  
を寄んとて來れる者汝に十分の報施をたまはんことを 一三 彼いひけるは主よ我をして汝の目の前に恩をえせしめ  
たまへ我は汝の仕女の一人にも及ざるに汝かく我を慰め斯仕女に懇切に語りたまふ

一四 ボアズかれにいひけるは食事の時は此にきたりてこのパンを食ひ且汝の食物をこの醋に濡せよと彼すなは  
ち刈者の傍に坐しければボアズ烘麥をかれに與ふ彼くらひて飽き其餘を懷む 一五 かくて彼また穂をひろはんとて  
起あがりければボアズその少者に命じていふ彼をして禾束の間にても穂をひろはしめよかれを羞しむるなかれ

一六 且手の穂を故に彼がために抽落しおきて彼に拾はしめよ叱るなれ

一七 彼かく薄暮まで田に穂をひろひてその拾ひし者を撲しに大麥一斗許ありき 一八 彼すなはち之を携へて邑に  
いり姑にその拾ひし者を看せ且その飽たる後に懷めおきたる者を取出して之にあたふ 一九 姑かれにいひけるは  
汝今日何處にて穂をひろひしや何の處にて工作しや願くは汝を眷顧たる者に福祉あれ彼すなはち姑にその誰の  
所に工作しかを告ていふ今日われに工作をなさしめたる人の名はボアズといふ 二〇 ナオミ媳にいひけるは願くは  
エホバの恩かれにいたれ彼は生る者と死る者とを棄ずして恩をほどこすナオミまた彼にいひけるは其人は我等に  
縁ある者にして我等の贖業者の一人なり 二一 モアブの女ルツいひけるは彼また我にかたりて汝わが穂刈の盡く  
終るまでわが少者の傍をはなるゝなけれといへりと 二二 ナオミその媳ルツにいひけるは女子よ汝かれの婢等と  
ともに出るは善し然れば他の田にて人に見らるゝことを免かれん 二三 是によりて彼ボアズの婢等の傍を離れず  
して穂をひろひ大麥刈と小麥刈の終にまでおよぶ彼その姑とともにをる

一四 爰に姑ナオミ彼にいひけるは女子よ我汝の安身所を求めて汝を幸ならしむべきにあらずや  
夫汝が偕にありし婢等を有る彼ボアズは我等の知己なるにあらずや視よ彼は今夜禾場にて大麥を  
簸る 一五 然ば汝の身を洗て膏をぬり衣服をまとひて禾場に下り汝をその人にしらせすしてその食飲を終るを待て  
而て彼が臥す時に汝その臥す所を見とめおき入てその脚を掀開りて其處に臥せよ彼なんぢの爲べきことを汝に  
つけんと 一六 ルツ姑にいひけるは汝が我に言ところは我皆なすべしと

一七 すなはち禾場に下り凡てその姑の命ぜしごとくなせり 一八 倍ボアズは食飲をなしてその心をたのしませ

ル結一六・八  
ヲ得二・二〇、三・一一  
ワ得ニ・二〇

力得一・八  
ヨ得一・二・四  
タ得三・九

レ得四・一  
ソ申二五・五  
五 太二二・二四

ツ士ヘ・一九耶四・二  
撒前五・二二  
ム玉上二・一・八 錄

三三 翌後ヘ・二一  
三一・二三

往て麥を積る所の傍に臥す是に於て彼潛にゆきその足を掀開て其處に臥す  
九  
八  
七  
六  
五  
四  
三  
二  
一  
起かへりて見るに一人の婦その足の方に臥ゐたれば 妇は誰なるやといふに婦こたへて  
我は汝の婢ルツなり  
汝の裾をもて婢を覆ひたまへ汝は贖業者なればなり  
汝の後の誠實は前のよりも勝る其は汝貧きと富とを論ず少き人に從ふことをせざればなり  
女子よ懼るなかれ汝が言ふところの事は皆われ汝のためになすべし其はわが邑の人皆なんぢの賢き女なるをし  
ばなり 我はまことに贖業者なりと雖も我よりも近き贖業者あり 今夜は此に住宿れ朝におよびて彼もし  
汝のために贖ふならば善し彼に贖はしめよ然ど彼もし汝のために贖ふことを好まずエボバは活く我汝のために  
贖はん朝まで此に臥せよと

一四 ルツ朝までその足の方に臥て誰彼の辨がたき頃に起あがるボアズ此女の禾場に來りしことを人にしらしむ  
一五 べからずといへり 而していひけるは汝の著る袴衣を將きたりて其を開げよと即ち開ければ大麥六升を量り  
一六 て之に負せたり斯して彼邑にいたりぬ 爰にルツその姑の許に至るに姑いふ女子よ如何ありしやと彼すなはち  
其人の己になしたる事をことごとく之につけて 而していひけるは彼空手にて汝の姑の許に往くなられといひ  
一七 て此六升の大麥を我にあたへたり 姑いひけるは女子よ坐して待ち事の如何になりゆくかを見よ彼人今日  
その事を爲終すば安んぜざるべければなり

一八 爰にボアズ門の所にのぼり往て其處に坐しけるに前にボアズの言たる贖業人過りければ之に言ふ  
一九 某よ來りて此に坐せよと即ち來りて坐す ボアズまた邑の長老十人を招き汝等此に坐せよと

いひければ則ち坐す 時に彼その贖業人にいひけるはモアブの地より還りしナオミ我等の兄弟エリメレクの地を賣る 四我汝につげしらせて此に坐する人々の前わが民の長老の前にて之を買へと言ふと想へり汝も之を贖はんとおもはゞ贖ふべし然どもし之を贖はずば吾に告てしらしめよ汝の外に贖ふ者なればなり我はなんぢの次なりと彼我これを贖はんといひければ 五ボアズいふ汝ナオミの手よりその地を買ふ日には死る者の妻なりしモアブの女ルツをも買て死る者の名をその産業に存すべきなり 六贖業人いひけるは我はみづから贖ふあたははず恐くはわが産業を壞はん汝みづから我にかはりてあがなへ我あがなふことあたはざればなりと

七昔イスラエルにて物を贖ひ或は交易んとする事につきて萬事を定めたる慣例は斯のごとし即ち此人鞋を脱て彼人にわたせり是イスラエルの中の證なりき 是によりてその贖業人ボアズにむかひ汝みづから買ふべしといひてその鞋を脱たり 九ボアズ長老および諸の民にいひけるは汝等今日見證をなす我エリメレクの凡の所有およびキリオンとマロンの凡の所有をナオミの手より買たり 一〇我またマロンの妻なりしモアブの女ルツを買て妻となし彼死る者の名をその産業に存すべし是かの死る者の名をその兄弟の中とその處の門に絶ざらしめんためなり汝等今日見證をなす 二門にをる人々および長老等いひけるはわれら證をなす願くはエホバ汝の家にいるところの婦人をして彼イスラエルの家を造りなしたるラケルとレアの二人のごとくならしめたまはんことを願くは汝エフラタにて能を得ベテレヘムにて名をあげよ 二二ねがはくはエホバが此若き婦よりして汝にたまはんところの子に由て汝の家かのタマルがユダに生たるペレズの家のごとくなるにいたれ

三三斯てボアズ、ルツを娶りて妻となし彼の所にいりければエホバ彼を孕ましめたまひて彼男子を生り

ヨ路一・五八 署二 五五・二三 ツ代上三・四 太一・三 ラ代上三・一五 太一  
タ創四五・二一 詩ソ路一・五八、五九 レ母前一八 ネ民一七 六  
ナ太一・四

一四 婦女等ナオミにいひけるはエホバは讃べきかな汝を遺すして今日汝に贖業人あらしめたまふその名イスラエルに揚れ 彼は汝の心をなぐさむる者汝の老を養ふ者とならん汝を愛する汝の媳即ち七人の子よりも汝に善もの之をうみたり ナオミその子をとりて之を懷に置き之が養育者となる その隣人なる婦女等これに名をつけて云ふナオミに男子うまれたりと其名をオベデと稱り彼はダビデの父なるエサイの父なり  
一五 備ペレヅの系圖は左のごとし ペレヅ、ヘヅロンを生み ヘヅロン、ラムを生み ラム、アミナダブを生み アミナダブ、ナシヨンを生み ナシヨン、サルモンを生み サルモン、ボアズを生み ボアズ、オベデを生み オベデ、エサイを生み エサイ、ダビデを生り

## ルツ記をはり